

三条高校同窓会に定時制部会を立ち上げ当初は活発で、同窓会場を狭く感じるほど出席者多くありました。しかし、年度を重ねるにつれて、先輩方の欠席が増え、さらに新型コロナウイルスの感染拡大が定時制部会の運営に大きな影響を与えました。その後に、後期高齢期を迎えた事務局スタッフの体調不良（部会長である私も会計担当も）が拍車をかけましたこと数年かけて、事務局や担当役員の若返りに努めてまいりましたが、それも叶わず、昨今のこの状況を鑑みて、まことに残念ではあります、三条高校定期制部会を休会扱いとさせていただきたいと思います。

かくいう私も、父が裸一貫で立ち上げた庖丁・刃物を製造する鍛冶屋と、夜間学生を両立させていました。若かりし少年には本当にキツイ仕事でした。仕事場から教室に向かい、授業が始まると同時に突っ伏して寝ていたことも、今となっては懐かしく思い出されます。

三条高等学校定時制課程は、昭和二十六年に普通課程が設置されてから、七十年、平成二十三年に惜しまれながら閉課程となりました。二、二八五名の卒業生は、いまなお全国各地で活躍されています。

私が本校定時制に入学した昭和三十五年は、まさに高度成長期。日常的に働き手が足りない時代でした。金の卵として、都会に出る人がいる一方で、長男長女は幼い頃からの手伝いの延長で、自然と家業についていた人も多かつたようです。

三条高等学校同窓会定時制部会の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。日頃より同窓会活動に多大なるご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて先日、第二十二回六月総会をもって定時制部会活動を休止する旨のご連絡を頂戴いたしました。これまで初代斎藤部会長、二代笛木部会長から現在の三役でいらっしゃいます曾根部会長、野水事務局長、横山会長である私も会計担当も

同窓会休会にあたり

同窓会定時制部会休会にあたり

勧学の絆

三条市月刊1-2-1
発行責任者 曽根忠一郎
編集委員長 野水 秀勝
TEL: 0256-33-0208
FAX: 0256-33-0134

三条高等学校同窓会

会長 野水 重明

三条高等学校

校長 内田 卓利

先輩方の素晴らしい気概を受け継ぐ

ご挨拶



大谷ダム湖(ひめさゆり湖)

今から十年前に三条高校定期制課程は閉課となりました。それまで使われていた教室は部活動の場として、給食室は自主勉強の場として、今でも大切な場所になっています。

生徒たちが下校した放課後に校内を見回ると、明かりが灯るそれらの部屋で授業を受けている生徒たちの姿が脳裏に浮か

んで、互いに語らう声が聞こえてきそうです。皆様が過ごした高校生活、その中で抱いた感謝の気持ち、そして何年たってもその経験を大切にしておられる皆様のことを、現在の三条高校だからこそできること

生き続けていることにも感慨深く存じます。先輩方の素晴らしい気概を受け継ぎ、三条高等学校同窓会活動をますます盛り上げてまいります。

さて、我が母校三条高等学校は今年百二十周年を迎えます。同窓会では、百二十周年事業を通して母校の創立からの歴史を振り返り、先人を偲び、今後なお一層の躍進・発展を祈念するとともに、在校生やこれから入学される生徒の皆さんのが入学環境の一層の充実を図りましたと考えております。さらに、コロナ禍においては、同窓生の繋がりや絆の大切さを再認識す

べくの方々の高校時代の様子や卒業後の歩みなどを読ませていただることは、私にとり大変、意義深いことです。仕事と年事業にしてまいりたいと思ひます。

昭和一十六年の定期制課程設置以来、大変多くの優れた人材を輩出され、地元産業界発展への貢献をはじめ全国各地で

卒業後の歩みなどを読ませていただることは、私にとり大変、意義深いことです。仕事と年事業にしてまいりたいと思ひます。

未筆ではございますが、皆様のご健康とご健勝を御祈念申し上げますとともに、今後とも同窓会活動に対するご支援ご指導のほど宜しくお願ひ申し上げます。

三条高校同窓会に定時制部会を立ち上げ当初は活発で、同窓会場を狭く感じるほど出席者多くありました。

<p

第22回 三高同窓会 定時制部会 アルバム

(楽しい同窓会懇親会記念写真として保管をお願いします。)



定時制部会 第二十二回
総会は六月十一日おゝ乃で
コロナ対策を実施して開催
されました。

ご来賓は野水同窓会長、
内田校長、恩師は首藤先生、
阿久津先生、中島先生、井
之川先生、名塚先生七名の
ご出席を賜り、同窓生三十
名のご参加で合計三十七名
で和やかな雰囲気で総会・
議事進行致しました。

会務報告の事業計画と收
支予算報告は全員の拍手で
すべて承認されました。
会長の心使いと鈴木四子二
さんにより初代会長(齋藤善
一さん)のメッセージを読まれ
ると会場がシーンとなり感激
しました。

総会

第一部 総会 (15:30~16:15)

開会 司会	副部会長	武士俣昭司
部会長挨拶	定時制部会長	曾根忠一郎
来賓挨拶	同窓会会长	野水重明様
来賓挨拶	学校長	内田卓利様
会務報告並びに定時制部会休止説明		曾根部会長
令和3年度事業並びに収支決算報告		武士俣昭司
会計監査報告		長沼宣男
令和4年度予算案		
定時制部会よりのお願い		
集合写真撮影		
ロビー・談話室で休憩		



野水同窓会長
ごあいさつ



コロナ感染対策されスペース十分な会場

第二部 懇親会 (16:30~18:30)

開会 司会	副部会長	武士俣昭司
斎藤善一元部会長よりメッセージ		鈴木四子二
恩師近況のメッセージ		
乾杯の音頭 副部会長		坂井正和
会食 歓談タイム 約30分		
プレゼント紹介 下田産コシヒカリ1kg 橘 清久		
出席者全員 清酒 五十嵐川吟醸酒		
同窓生近況のメッセージ 約20分		
懐かしの会食 歓談タイム 約30分		
校歌齊唱 指揮 恩師 首藤隆司		
伴奏 長沼宣男		
閉会挨拶・御礼の言葉		
相談役 長瀬嘉之助		



『レモンと山茶花』

大河悠々 司 雪絵

渡辺 藤之進

昭和三十二年 第三回
三条高等学校美術部で油絵を
始め六十余年、自宅にアトリエ。
創立八十七年白陽会の常連メ
ンバー。
作品の一部を紹介いたします。

渡辺コレクション

懐かしい歴代校長

三条高等学校定時制課程アルバム



最後の寄稿となります。が小生の定時制入学の頃、卒業してから思いなど記憶をたどつて記してみたいと思います。定時制で学んだ事が現在の小生の「すべて」だと述べたことがあります。小生中学卒業、二年程修業、丁稚奉公、きびしい体験、その後忙しい家業に従事。昭和二十六年開設された定時制入学一期生です。一期生だけに年齢的に先輩者が多く、多様性の中で交流が培われていきました。その事が小生のいろいろな面で大きな影響をもたらしたものだと思います。それと先生方の個性、熱意あふれる授業、経験した事のないものでした。私共の向学心と先生方の情熱と思いが共鳴しあって、働きながら学ぶという環境の中で、輝かしい青春の学びの場が実現したのであります。

部活動休止の報に接し、閉課程となつた現在、いずれ停止せざるを得ないと思つていました。が誠に残念の事。役員皆様の体調不良となれば致し方のない事。でもここまで永きにわたり活動された事。誠に見事。深甚な敬意と、只々感謝の念一杯でやむことありません。

な交流は、小生のその後の人生で深い「友情」「絆」を教えてくれました。この事が小生の人生に貴重な糧となり、今、現在のバックボーンとなつたことは間違いありません。定時制にこの思いを持つのは、小生が社会に出でから入学したその事が大きく影響したかもしれません。

定時制卒業後、定時制の持つ独特の雰囲気 定時制だけの「集い」ができるないものか、その思いが常に心にありました。その思いが卒業後五十年余経つた、平成十三年に実現したのです。定時制部会誕生です。その経過は省きますが、今思えばあの時期を逃さず部会を作つたことは一瞬のチャンスだつたのかもしれません。それこそ、「友情」「絆」の結晶によるものだと思います。部会設立までは大きなものとして残つていて、卒業生一人ひとりの胸の中でもっと確信しております。ここまで永きにわたり活動されて来たのです。

たとえ活動が休止されてもその「絆」はあせるものではありません。「定時制で学んだ」という事実は消え去るものではなく、卒業生一人ひとりの胸の中で大きなものとして残つていて、今まで活動ご苦労様でした。重ねて只々感謝、ありがとうございます。





会員様よりの寄稿を
掲載いたしました。

同窓会の広場



昭和三十五年 第六回卒 加藤菊江

最初と最後に居合わせて
定時制部会

定時制のころ、新聞部・文学部・卓球部に入っていた。その流れで今でも編集校正など好きだし、卓球観戦を楽しんでいた。



昭和三十六年 第七回卒 村上聖一

感謝

それはさておき、当時私が末端にいた新聞部OBの、おはぎの会の発案で、平成十三年（二〇〇一）、三条高校同窓会に定期制部会が設立した。その翌年「三条高校百周年・定期制五十年」の式典があり、記念誌『想痕』が編纂され、その手伝いをしている。そして十年後の平成二十三年に定期制課程は五十九年の歴史に幕を閉じた。その歴史は『勵学の地』ここにあり』の碑に刻まれ、同名の記念誌も編まれた。

又、本誌『勵学の絆』を、野水編集長の元で関わさせていた

だいた。

その幸運は、定期制時代に培った編集の力が大だと思つてゐる。

これらを繰りたびに、二三九〇

名の同窓の一人ひとりが定期制で学んだ四年間で、何ものにも代え難い確かなものを得、それ

を実感する。

定期制部会は、設立から二十年の今日、休会となつたが、三高同窓会本部の母なる大きな懐に戻れたと思えば、残念だが淋しくはない。休会にあたり、部会立ち上げの時の数倍の力を尽くして下さった現役員の方々に、これまでのことと合わせて、心から感謝を申し上げたい。本当にご苦労さまでした。

定期制部会

最初と最後に居合わせて

定期制部会



平成十七年

定期制部会再開への願望

三条高校同窓会定時制部会の活動を休止するにあたり、部会活動を最も前進させ、『勵学の糸』を発行実現させた現部会長の曾根さん、事務局長の野水さん本当にご苦労様でした。

定時制部会の活動で今思い出しているのは、三条高校定時制課程の閉課程が決まり、記念式典(三条高校体育馆で開催)。若い世代の定時制部会会員が、株式会社コロナ様駐車場への誘導。感謝の会(懇親会)一七二名の出席者を東公民館へ道案内。記念誌発行等々に積極的に参加協力して頂いた事実です。どうか若い世代の同窓会員の皆さんのお行動力と実行力、更是連帯感の強さを活かし、年一回親睦を深める定時制部会総会を開いて下さい。

以上を願い望んでいる昨今の私です。



三高 県民の森



八幡宮金山神社

昭和三十二年 第三回卒業記念会
懐かしい同窓会 外山忠弘

懐かしい同窓会

昭和三十一年 第三回卒

同窓会事務局へのメッセージ

わたしの日報社

加野
康子

わたしの日報

この度、同窓会の案内状お送り
下さいまして大変ありがとうございます。

三高の定時制が終わりになるといふ記事を読みあまりの寂しさに私の心境を綴つて投稿してみました。『勵学の綽』に載せていただき、同窓生の皆さまが思いを同じくしてくだされば幸いに思っております。定時制の級友と会うことが一番楽しいです。

昭和三十二年 第三回卒

渡辺藤之進

春が駆け出す

山の残雪が日ごとに変わる
冬のコート脱ぎすて

山並みの雪形が未知の想像を誘う
桜はいつもより早いと浮かれている
木蓮もたちまち咲き開き

椿が咲きほこり
つぼみと花が湧いてくる
菜園の土が呼んでいる

椿
肥やり 耕し

播き時 植え時 だいじな時節

一面緑のカモフラージュ

周りの景色が田んぼの水面に映える
早苗の先がそろつとなびく
薰風が心地良く頬をかすめる
何にかも匂の息吹を感じる

3月4日の新潟日報県央版に、三条高校定時制最後の卒業式、歴史59年の間2290人の卒業生が巣立つて行ったという記事を読み、その卒業生の一人として一抹の寂しさを感じずにはいられなかつた。最後の卒業生代表の言葉に、定期制が閉じられても、心の中で生き続ける、胸を張つて生きてゆきたい、と力強い言葉に私の思いが重なつた▼顧みるに、戦後まもない時代、向学心に燃えても経済的、また、その他の理由で、全日制で学ぶことのできない人たちは、働きながら学べる定時制度のもと先生も生徒も真剣に励んだ▼私は昭和32年入学、百姓しながら五十嵐川の橋を渡つて通学した。当時同級生でも年齢はまちまち、職業も千差万別、みんな心一つにして学んだ▼国語の時間に習つた「学問のさびしさ」にたへ炭をつぐ」という山口晉子の名句。同じ学ぶものとして、「労働のきびしさ」にたへ夜学生」と詠んでみた。さびしさ、ときびしさの違いだけで一生懸命物事に立ち向かう心境は変わらない▼定時制で得たものは、学問以上に働きながら4年間通り通した忍耐心が、今日まで70余年生きてきた上で何より代え難い私の財産となるべきだ▼時代とはいへ、閉校せざるを得ないことは理解しても、まだ定期制制度を必要としている人たちがいることに残念でならない。これも世のすう勢なれば仕方ないことなのかと感慨にふけつてしまつた。



三条の包丁が
世界で話題です。

包丁のご購入・修理・研ぎ直しあ気軽にご相談ください。
庖丁工房タダフサ ファクトリーショップ
三条市東本成寺27-16 電話 0256-32-2184
営業時間 9:00-17:00(日曜のみ休み)
公式通販サイト <http://www.tadafusa.net>



昭和36年 第7回終

昭和38年 第1回半 村上 重一
本社/長岡市東池町44-5 TEL(0258)28

本社／長岡市雨池町44-3 TEL(0258)28-0029 FAX(0258)28-0040
新浪／新浪市中央区愛宕2-10-3 新津／新浪市秋葉区今沢町2-1

新潟/新潟市中央区愛宕2-10-2 新津/新潟市秋葉区金沢町3-1-9
新潟市/新潟市東区船江町9-5-15

新潟東／新潟市東区船江町2-5-15

「奨学の糸」は皆様の寄付金で支えられています。

三高同窓会ホームページ <http://www.sanjo-dosokai.gr.jp> 定時制部会の「**勵学の絆**」が掲載されています。

今回は三条を五時に出発。栄
スマート IC 米山 SA(糸魚
川 IC 下車)
国道一四八号(白馬駅)八方
駅(ゴンドラ乗車八分)リフト
十二分 八方池山荘到着。
八方池まで往復三時間半の登
山で途中白馬三山東の山並みの
絶景のスポットを眺めながら下
山しました。

私は定期制卒業から五年後、今から約五十年前、新潟県の青年海外派遣事業の一環で当時のソ連シベリア地方の三都市を訪問した。当時の私は三条で生まれ育ち、「井の中の蛙」大海を知らず」と同じで世の中のことなど無関心で生活していました。



世界に誇る山岳リゾート

白馬八方尾根トレッキング

昭和三十一年

坂井
正和



自馬八方尾根



小さな世界から 大きな世界へ

昭和四十二年

野沢
ミチエ



寄付金サポーター

令和3年度も多くの方にご支援いただきました。
会報発行費として大切に活用させていただきます。
本年もよろしくお願いします



昭和30年	第1回卒	齋藤 善一
昭和30年	第1回卒	立田マチ子
昭和30年	第1回卒	鈴木四子二
昭和30年	第1回卒	道見 静江
昭和31年	第2回卒	坂井 正和
昭和32年	第3回卒	石村 容子
昭和32年	第3回卒	羽生 敏夫
昭和32年	第3回卒	外山 忠弘
昭和33年	第4回卒	石月 了太
昭和34年	第5回卒	笛川 正司
昭和34年	第5回卒	植木 憲一
昭和35年	第6回卒	塙野 紀子

昭和35年	第6回卒	加藤	菊江
昭和36年	第7回卒	村上	聖一
昭和36年	第7回卒	西方	静子
昭和36年	第7回卒	佐藤	ヨシイ
昭和36年	第7回卒	若林	美枝子
昭和36年	第7回卒	長沼	宣男
昭和37年	第8回卒	浅野	三夫
昭和37年	第8回卒	宮島	和子
昭和37年	第8回卒	森山	寿栄
昭和38年	第9回卒	曾根忠一郎	
昭和38年	第9回卒	帆苅	正孝
昭和38年	第9回卒	山田	洋子

昭和38年	第9回卒	出羽
昭和38年	第9回卒	国府田良
昭和38年	第9回卒	諸橋 幸
昭和39年	第10回卒	野水 秀
昭和39年	第10回卒	横山 秀
昭和39年	第10回卒	野崎美恵
昭和39年	第10回卒	石田 信
昭和40年	第11回卒	大谷 イ
昭和41年	第12回卒	桑原 幸
昭和41年	第12回卒	田巻 直人
昭和42年	第13回卒	野沢ミチ
昭和42年	第13回卒	長谷川勝

昭和43年	第14回卒	山口	昇
昭和43年	第14回卒	佐藤	恵美
昭和44年	第15回卒	小出	い子
昭和44年	第15回卒	小林	修
昭和46年	第17回卒	松橋	京子
昭和47年	第18回卒	石綿	富一
昭和48年	第19回卒	谷江	貞二
昭和49年	第20回卒	鈴木	チイ子
昭和50年	第21回卒	飯塚	重美
平成17年	第51回卒	長瀬嘉之助	

皆様の御協力
ありがとうございました。

「奨学の絆」は皆様の寄付金で支えられています。

スマホ・タブレットでもご覧頂けます。

我が青春の思い出



昭和三十七年
第八回卒

私が入学したころは、本校舎が出来たばかりで他は木造校舎でした。生徒玄関を入ると廊下を挟んで突き当たりが用務員室だったのを覚えています。

当時は校則が厳しく服装は男子は学生服、頭髪は事情がない限り坊主頭と冬以外は高下駄でした。夏は白ワイシャツにズボン。女子生徒はそれに準じる服装。

何處かに友達と遊びに出かけるときは、教務室へ行つて届けなければなりません。まして、女子と一緒にとなれば、教師同行でなければ許可してもらえないでした。

私たちの学年は甲、乙の二クラスでした。でも、何かやるときは常に一緒にやることが多かつたので、あまりクラスが違うことを意識して居りませんでした。

ある時、私たちは下田笠堀の光明山登山を計画したら、一緒に行きたいと言うクラスメイトが増え七、八人位になりました。教務室に許可貰いに届けに行つたら、女子三、四人含まれていたことで、先生の同行がないと許可できないと言つて下さいました。その先生こそ一年先輩のクラス担任の首藤隆司先生です。私たちは直接は授業を受け持つてもらつていなかつたのでお名前は知りませんでしたが、本当に助かりました。

私は喜寿をすぎ、記憶力の衰えはあります、日常生活は支障がありません。と共に過ごした皆さん、お元気

なつかつたので、それが縁でそれ以來すつかり首藤先生にはお世話をうながすようになりました。先生は、都合がつく限り一緒に同行して下さいました。先生には本当に感謝です。

それがきっかけで、ハイキングサークル「山路」が出来ました。今思えばわが青春の思い出です。

武士侯昭司



感謝

恩師 福島正彦

この度、定時制部会の活動停止を知られ、時の流れを感じさせられました。これまで会報『勵学の絆』を送つていただきたことに感謝申し上げます。有難うございました。

私は昭和四十七年から七年間勤務させていただきました。およそ五十年ほど前になります。アルバムを開いて当時の写真を眺めていますと、勵学の生徒さんと一緒に過ごしたあの頃がなかなか思い出されます。

三条市水道局 大崎浄水場 桜満開

百年に一度という歴史的災厄



恩師 首藤隆司

健康な生活



恩師 阿久津文雄

閉課程記念事業に思う



恩師 小林浩人



三条市水道局 大崎浄水場 桜満開

高校を退職してから、十七年になります。年も満七十七才になり十三年三月をもって、昭和二十六年に設置以来、五十九年間の歴史に幕を降ろしました。前年の平成二十二年十月二日、閉課程記念式典、記念碑除幕式、感謝の会が挙行されました。今は自然石に「閉学の地ここにあり」と刻まれた記念碑(揮毫・岡村守様)のみが、そのことを伝えてくれています。

もう既に閉課程から十一年もの時が流れました。しかし、事業を成功裏に遂行するため、全日制、定時制を問わず多くの三条高等学校同窓生の皆様方に大変お世話になりました。当時は、小島正芳校長先生の指揮の下、同窓会長渡邊喜彦様の全面的な御協力をいただきました。

これまで定時制部会を発足させ、それを維持してきてくださいました。役員の皆さんに深く感謝しております。ありがとうございました。

当時の記念事業実行委員会組織団、総務○笛木誠様○鈴木毅様○小嶋英範様○記念誌○長谷川啓三様○井満喜子様○若槻八十彦様○竹義勝様○若槻八十彦様○募金○笛木誠様○小林敬典様○佐藤弘様を見つけました。いまだに感謝の念が湧き上がつてまいります。もちろん、首藤隆司先生、阿久津文雄先生には、常々お世話になりました。その他、御支援いただきました皆様方は、枚挙にいとまありませんが、時を経た今、改めまして皆様方に御礼を申し上げたいと思います。ありがとうございました。

令和4年度事業計画

- 三条高等学校本部事業への積極的な参加
- 同窓会定時制部会 総会・懇親会の開催
- 定時制部会報「勵学の絆」発行

令和4年度会計収支予算

(令和4年4月1日～令和5年3月31日)

科目	前年決算額	予算額	備考
前期繰越金	449,727	382,856	前年度繰越金
同窓会総会費	84,000	186,000	31人×6,000円
同窓会補助金	100,000	100,000	同窓会本部より活動費
事業参加費	18,000	0	
会員賛助金	226,000	10,000	
広告協賛金	90,000	90,000	広告宣伝費
雑収入	28,001	30,000	恩師参加費5人×6,000円
合計	995,728	798,856	

支出の部

科目	前年決算額	予算額	備考
事務通信費	24,261	24,700	名簿郵送印刷代
総会費	127,289	228,000	総会 38人
印刷代	242,107	160,000	会報 富士印刷
会報発送費	127,000	120,000	富士印刷郵送代
会議費	3,000	6,000	会場借用料、お茶代
事業費	18,000	106,940	プレゼント・反省会
振込手数料	8,215	215	賛助金振込手数料
三高寄附金	30,000	120,000	同窓会120周年寄付
予備費	33,000	33,000	写真アルバム郵送
次期繰越金	382,856	0	
合計	995,728	798,856	

令和4年度会計決算は諸支払の終了後、余剰金を全て三条高等学校創立120周年事業寄附させていただきます。同窓生の方々のご協力誠にありがとうございます。

同窓会役員会開催

- 4月9日(土) 定例役員会を開催
 5月7日(土) 令和4年度事業計画スタート
 6月4日(土) 総会準備

出席者

- 部会長 曽根忠一郎
- 副部会長 坂井 正和
- 副部会長 武士保昭司
- 相談役 長瀬嘉之助
- 会計監査 長沼 宣男
- 会計監査 野沢ミチエ
- 会計 横山 秀雄
- 事務局 加藤 菊江
- 事務局長 野水 秀勝



主要議題

- 令和3年度会計決算報告
- 令和4年度事業計画案 検討
- 第22回 総会開催・総会資料・実施計画
- 会報第8号 進捗状況報告

定時制部会 会報

「勵学の絆」休刊のお知らせ

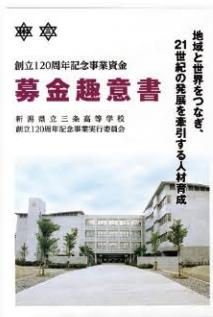
『勵学の絆』は第8回をもちまして休刊することになりました。三条高校同窓会誌の『源泉』にあります支部だよりのコーナーに定時制部会の方の文章が掲載されています。寄付金のお願いもあり、同窓活動寄付金芳名簿に寄付された方の名簿が掲載されます。長きにわたりご愛読いただきありがとうございました。

また、会える日まで三条高校同窓会誌の『源泉』にてよろしくお願ひいたします。



5月1日(日) 令和4年度
**新潟県立三条高等学校
 同窓会総会開催**

ジオ・ワールビップにて三条高等学校同窓会総会が開催され、定時制部会の休会が報告されました。つきましては、今年は創立120周年という節目にあたり、記念行事及び事業を計画し、募金を集めることとなりました。三条高校同窓会誌と一緒に、上にあります「募金趣意書」が入っております。皆様ご協力とご支援を何卒よろしくお願い申し上げます。



創立百二十周年記念事業資金
募金趣意書



ふるさと三条市の懐かしい景観写真の掲載や三高県民の森への寄付を通じて三条市への変わらない愛校の気持ちを訴えつつ八年間、愚直にまっすぐに『勵学の絆』に取り組んで参りました。いつも皆様には、言葉に尽くせない多くの皆様には、言葉に尽くせない思いで一杯です。心からありがとうございました。と申し上げ、休刊

八年間継続して広告協賛いただきましたツインバード・北栄・タダフサ様には紙面をもちまして厚く感謝申し上げます。

毎号ご寄稿いただきました同窓会長・学校長・恩師・会員に感謝いたします。

八年間愚直にまっすぐ



編集長 野水秀勝

『勵学の絆』
編集後記